

授業科目	異文化理解特講 Intercultural communication			担当教員	山内 美穂		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年/後期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>異文化を理解するということは、グローバル化した今日の社会にあって、誰にでも求められている生活上の態度であるといえる。異文化は、政治、経済、生活のあらゆる場面にまで入り込んでいて、世界中の人々がお互いに理解するというのは不可能ではないかと思われるほどである。本講では、テキストの視点到い、これまで以上に重要になってきた異文化理解を考察する。西洋からの視点やステレオタイプ化した観点から日本の日常生活を再考し、さらに増えていく日本を訪問する外国人や日本に滞在する外国人の視点から「日本という異文化」を考えることをねらいとする。</p>							
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
関心・意欲 ・態度	積極的に討議へ参加できる。				討議への参加		20%
思考・判断	異文化について、多角的な視点から考察できる。				レジュメ		30%
技能・表現	分かりやすく論理的なプレゼンテーションをすることができ きる。				プレゼンテーション		20%
知識・理解	様々な異文化を理解し、文献検索ができるようになる。				レポート		30%
出 席							受験要件
合 計							100%
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>上記の評価方法で討議への参加を20%、レジュメを30%、プレゼンテーション20%、レポートを30%で評価する。</p>							
授業の概要							
<p>テキストに添って、履修者各自が報告するかたちで討論をすすめる。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：青木保『異文化理解』岩波新書 参考書：適宜指示する</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>事前に該当箇所を必ず読み込み、関連する文献を収集しておくこと。 遅刻・欠席をしないこと。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	報告箇所の割り当て	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.2-17.
2	異文化へのまなざしⅠ	文化のもつ意味	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.17-23.
3	異文化へのまなざしⅡ	自文化と異文化	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.24-32.
4	異文化へのまなざしⅢ	異文化接触	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.32-40.
5	異文化体験Ⅰ	タイ僧院での参与観察	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.42-61.
6	異文化体験Ⅱ	時間と空間	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.62-73.
7	異文化体験Ⅲ	儀礼や儀式の意味	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.74-86.
8	異文化の警告Ⅰ	インド社会	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.88-106.
9	異文化の警告Ⅱ	ステレオタイプの危険性	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.107-120.
10	異文化の警告Ⅲ	文化の衝突	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.121-136.
11	異文化の警告Ⅳ	文化衝突と文明衝突	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.138-158.
12	異文化との対話Ⅰ	文化の翻訳	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.159-168.
13	異文化の警告Ⅱ	混成文化を考える	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.169-183.
14	異文化の警告Ⅲ	文化と文化の狭間で	テキスト指定箇所の読みと要約 pp.184-209.
15	まとめ	これまでの議論の整理	レポート執筆